

2018 年度人文学部 FD 活動方針・活動計画
(キリスト教学科、人類文化学科、心理人間学科、日本文化学科)

学部レベルとしては、学部カリキュラム委員会を中心として、まず 2017 年度末に実施した卒業生アンケート調査の分析を行い、引き続き、人文学部のカリキュラム・ポリシーとの整合性の検証、2017 年度から開始されたクォーター制に伴う授業運営の問題点と改善策の検討を行う。さらに、2017 年度に初めて開講した「人文学部異文化研修短期留学プログラム A」の成果や問題点を、参加者の声を拾い上げて検証し、その教育の改善をはかるとともに、2019 年度に開講を検討している「同プログラム B」の運営にもそれを反映させ、より効率的な運営方法を検討する。人文学部 FD 企画については、FD 委員を中心に原案を作成し、学部カリキュラム委員会において決定する予定である。

学科レベルでは、学科ごとに次のような計画を実施する予定である。

キリスト教学科では定例的・日常的な取組みに加えて、以下の点に重点をおく計画である。第一に、クォーター制のもとでの演習と卒論指導について、あらためて課題を整理し、すぐに対応できることを実行するとともに、中長期的な見通しも考えたい。第二に、時間割の重複を指摘する学生の声が多いので、具体的な対応策を検討する。第三に、各種の学科行事は一定の成果をあげていると思われるが、より効果的におこなえるよう改善を続ける。

人類文化学科では、2017 年度の実施状況を踏まえ、2018 年度は以下の点について取り組みたい。

- ①広報担当教員が中心となって、学科ホームページを随時更新する。
- ②「人類学フェスティバル」や大学のオープンキャンパスなどの行事を通して、学科の魅力を発信していく。
- ③卒業生対象としたアンケートの分析結果をもとにカリキュラムの見直しを行う。
- ④2019 年度から始まる、海外で学外授業を実施する「フィールドワーク（文化人類学）」の準備を滞りなく進める。
- ⑤今年度も学科 FD 研修会を実施する。

心理人間学科は、例年通り、多様な機会をとらえて学生の情報、授業の情報を共有するよう努め、新入生、卒業生、オープンキャンパス参加者を対象とした学科教育にかかる調査活動を継続する。また学科会議はもちろん、「心理人間学科自己点検・評価委員会」や「心理人間教育研究会」を開催し、教育・研究にかかる課題の発見と対処についての検討をすすめていく。

特に 2018 年度は、国家資格「公認心理師」の受験資格に対応したカリキュラムへと移行する年にあたる。国家資格の登場とそれに対応したカリキュラムへの移行は、学生や受験生の意識に与える影響も大きいと考えられる。そのため学生の状況の日常的観察や「入学者アンケート」、オープンキャンパス参加者を対象とした調査を通し、学生、受験生の変化に留意し情報を得ておくことが後の FD 活動につながると推測される。

同時に学科としては、心理学、教育学、人間関係論という3領域をもつという特徴を保持し、それを生かしつつ公認心理師資格に対応するという方向性を具体化する必要がある。その集大成ともいえる「演習」「実習」の科目については、ワーキンググループを設置して内容の検討を進める。またカリキュラムツリー等カリキュラム構造の視覚化を検討するなど、学生がより自覚的に授業の選択、関連づけができるような情報の準備を進める。

日本文化学科では、一昨年度から行っている卒業生に対するカリキュラム調査などを参考にしつつ、より一層のカリキュラムの充実を、継続して話し合っていく予定である。また、学生への指導に関しては、本年度と同じく学科内における情報の共有を怠ることなく、より細やかな対応に努めることとしたい。毎年度末に行うFD企画については、従来は実際に学科内で行われている新たな学習方法の紹介や、新しい概念あるいは機器を用いた教育方法の導入などについての研修会を行うことが多かった。今年度の企画はそれらとは些か趣を異にするが、教員として豊富な経験を有する細谷・鎌田両氏の講話を拝聴、議論したことは、これまでの大学の伝統を踏まえつつ将来の大学の姿を模索していく上で、貴重な機会であったと考える。クォーター制も二年目を迎え、今後これまでにない新たな問題が生じてくる可能性もあるが、研究や教育の本質には不変の部分もあることを忘れずに、現実の問題に対応することを旨とする必要があるだろう。